

「スウェーデンの環境教育と日本における環境教育のこれから」

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議「COP10」が名古屋市で開かれます。我が国においても、環境教育や環境保全をより一層推進する必要があります。

日本では、野外教育が学校現場以外のところで発展していますが、スウェーデンでは、野外教育が公立学校の教育に組み込まれています。

スウェーデンでの先進的な取り組みの事例は、今後の教育やまちづくりに大いに参考になることでしょう。日本における、里山をはじめとした豊かな自然を教育に積極的に活かす方策について、皆様とともに考えたいと思います。

シンポジウム

スウェーデンにおける環境教育の最前線で活躍する教師やコーディネーターをお招きして、スウェーデンにおける取組事例や活動の理念についてご紹介いただきます。また、環境分野を専門とする弁護士を交えたパネルディスカッションも行います。

3月24日13:30-15:30 13:00 開場

受講料:無料 事前申込み不要

会場 名古屋工業大学 2号館1階 F2教室

名古屋工業大学は、JR中央線・地下鉄 鶴舞駅 下車 徒歩約8分です。

ツアー 平針の里山の散策

パネリストともに、里山の散策を行います

3月24日 10:00～11:30

現地集合:名古屋市天白区天白町大字平針字黒石
2878-366(平針の里山入り口・宗宮宅前)

パネリスト

Ms Barbro Kalla バルブロ・カッラ

ウーメオ市 スウェーデン持続可能なスウェーデン協会



教育プロジェクト コーディネーター
プロジェクト・マネージャー
「持続可能なスウェーデン・ツアー」
来日団団長
国際コーディネーターとして、「持続可能な発展」分野で必要とされる、ネットワーク構築やスウェーデンのノウハウ提供などを行っている。

Mr. Mats Wejdmark マッツ・ウェイドマルク

ニーネスハムン自然学校



教員、野外環境教師、スウェーデン自然学校協会会報誌編集長
野外教育指導書の著者
授業に使われる場所は牧草地だった土地であり、教師と生徒が一緒に行政が策定した管理計画に基づき、その土地を1950年代の生物多様性の豊かな状態に戻す取り組みをしている。

Mr Robert Lattman ローベルト・レットマン

ニーネスハムン自然学校



教員、野外環境教師、スウェーデン自然学校協会会報誌編集長
野外教育指導書の著者
ストックホルム大の生物・地質学修士。
ストックホルム周辺の自治体の学校教員と幼稚園教諭を対象に数学、スウェーデン語、英語の科目を野外教育でどのように教えるかについての研修を行っている。

Mrs Irene Bergman イレーン・ベリユマン

ハルムスタド自然学校



教員、野外環境教師、学校開発講師
環境コーディネーター
ハルムスタド市は、自治体内に漁業、農業、林業という三つの重要な『ピオトープ』を持っている。海岸沿いにあるリトルコペンハーゲンという漁業小屋で、生徒たちは何日間もキャンプ生活をしながら、自然や文化をテーマにした学びを体験できる。

Mrs Mia Bucht ミア・ブッシュト

ファールン市 ファールン自然学校



自然と環境教師
野外教育指導書の著者
ファールン世界文化遺産の区域内における、教育を目的とした「ミュージアム農場」の教師。農場には自治体のすべての生徒が就学中に何度も訪問をするなど、魅力的な取り組みを行う。また学校の環境認証制度である「グリーンフラグ」のプロジェクトも推進。

Ms Lena Lindahl レーナ・リンダール

東京在住
持続可能なスウェーデン協会 日本代表



来日プログラムコーディネーター、通訳執筆、講演活動を通じてスウェーデンの環境保護活動や政策を日本で紹介。関東弁護士会連合会 公害対策・環境保全委員会とともにスウェーデン環境法典の邦訳を監修。スウェーデン生まれの環境教育団体、NPO ナチュラル・ステップ・ジャパン理事。